

シラバスを参照したい科目をクリックしてください。

[戻る](#)

タイトル	開講所属	時間割コード	授業科目名			主担当 教員	対象年次	学期	曜日・ 校時	開講期間
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育全学 モジュール II科目-10 核兵器のな い世界を目 指して	20130587041301	●核兵器のな い世界を目 指してII(市民 運動・NGO と核兵器廃 絶)	和	E	中村 桂 子	1年,2年,3年,4年	後期	木 3	～
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育全学 モジュール II科目-10 核兵器のな い世界を目 指して	20130587041701	●核兵器のな い世界を目 指してII(被ば く者と医療)	和	E	三根 眞 理子	1年,2年,3年,4年	前期	金 3	～
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育全学 モジュール II科目-10 核兵器のな い世界を目 指して	20130587042101	●核兵器のな い世界を目 指してII(核兵 器廃絶と教 育)	和	E	全 炳徳	1年,2年,3年,4年	前期	金 4	～
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育全学 モジュール II科目-10 核兵器のな い世界を目 指して	20130587042501	●核兵器のな い世界を目 指してII(文 学・芸術と核 兵器)	和	E	広瀬 訓	1年,2年,3年,4年	後期	金 3	～
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育全学 モジュール II科目-10 核兵器のな い世界を目 指して	20130587042901	●核兵器のな い世界を目 指してII(核軍 縮の法と政 治)	和	E	広瀬 訓	1年,2年,3年,4年	後期	木 4	～

[戻る](#)

タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育全学モジュールII科目-10 核兵器のない世界を目指して**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130587041301	科目番号	05870413
授業科目名	●核兵器のない世界を目指してII(市民運動・NGOと核兵器廃絶)		
編集担当教員	中村 桂子		
授業担当教員名(科目責任者)	中村 桂子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	中村 桂子		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養G棟]G-3B		
対象学生(クラス等)	教育学部、経済学部、薬学部、水産学部		
担当教員Eメールアドレス	nakamurak@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	核兵器廃絶研究センター (RECNA)		
担当教員TEL	095-819-2865		
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	このクラスでは、核兵器をめぐる日本と世界の動きの中で、市民運動やNGOがどのような役割を担ってきたのかを学びます。民主主義における市民社会の役割と位置付けを概観したのちに、過去と現在におけるいくつかの特徴的な市民・NGOの活動の例を取り上げ、その背後の理論、成果、残る課題等について検証します。核軍縮に限らず、さまざまな国際問題に関心のある学生、将来国際機関やNGOで働くことを視野に入れている学生、一人の人間として社会に対して何ができるのかを模索したい学生、いろいろな問題関心のある学生に対応した授業となっています。		
授業方法(学習指導法)	授業は担当教員による講義に加え、ゲストスピーカーによる講義やグループ発表、ディスカッションなどを組み合わせたものになります。講義であっても、リアクションペーパーなどを通じて、学生が主体的に自分の意見を組み立て、表現する機会を持てるようにします。また、授業の中では、パワーポイントスライド、写真、映像などのさまざまなビジュアルを通して、学生が最新の世界の動きに触れるとともに、そのダイナミズムを感じ取られるような授業を行います。実際の活動の当事者を招いて話を聞くことも追求します。受講人数にもよりますが、少人数グループに分かれての調査、その報告及びグループディスカッションも予定します。		
授業到達目標	核兵器をめぐる市民運動とNGOの動きについて全体的な知識を得るとともに、核兵器のない世界の実現に向けた課題が何かを理解し、解決への具体的方途について学生一人一人が自分で考え、それを説明できるようにすることを期待します。		
	講義は、「市民」「市民社会」「NGO」とは何かといった概念整理から始め、民主主義体制における市民社会の役割を歴史的観点から概観します。その中では、特定の兵器に関する禁止条約の策定において市民・NGOが担ってきた役割についても学びます。核兵器をめぐるのは、その誕生から現在に至るまでの歴史の中で、国内外の市民・NGOがどのような運動を展開してきたか、その歴史的背景、活動における理念や考え方、実際の活動、社会的・政治的影響と成果、残る課題等について具体的事例を挙げながら検証していきます。並行して、グループ単位でのNGO・市民運動の活動に関する調査を行い、その結果を発表するとともに意見交換を行います。		
	回	内容	
	1	授業の進め方について 「市民社会」とは何か	
	2	市民社会は世界を変えたのか ——対人地雷、クラスター弾禁止の例から	

授業内容	3	原水爆禁止運動の誕生と発展	
	4	広島・長崎の被爆者の運動	
	5	核保有国での反核運動	
	6	非核兵器地帯をめぐる運動	
	7	核兵器廃絶に向けた自治体の取り組み	
	8	中堅国家を動かす	
	9	世界法廷運動、ICJ勧告とその後	
	10	核兵器の非合法化をめざして	
	11	若者による運動	
	12	グループ発表①	
	13	グループ発表②	
	14	グループ発表③	
	15	まとめ：私たちにできることは？	
	16		
	キーワード	核兵器、市民、市民社会、NGO	
	教科書・教材・参考書		
成績評価の方法・基準等	出席点及び講義の際のリアクションペーパー、意見発表などの平常点が全体の60%、期末のレポートが40%です。		
受講要件（履修条件）	全回出席が原則。		
本科目の位置づけ			
学習・教育目標			
備考（URL）			
備考（準備学習等）			



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育全学モジュールII科目-10 核兵器のない世界を目指して**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 3																														
開講期間																																	
必修選択	選択	単位数	2.0																														
時間割コード	20130587041701	科目番号	05870417																														
授業科目名	●核兵器のない世界を目指してII(被ばく者と医療)																																
編集担当教員	三根 真理子																																
授業担当教員名(科目責任者)	三根 真理子																																
授業担当教員名(オムニバス科目等)	三根 真理子, 中島 正洋, 宮崎 泰司, 赤星 正純																																
科目分類	全学モジュールII科目																																
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目																														
教室	[教養A棟]A-12																																
対象学生(クラス等)	全学生																																
担当教員Eメールアドレス	mmine@nagasaki-u.ac.jp																																
担当教員研究室	医学部原研情報室																																
担当教員TEL	095-819-7127																																
担当教員オフィスアワー	火曜日 17:00~19:00																																
授業のねらい	原爆被災後の、被災者の救護活動、人体への影響の実態、健康影響の追跡調査の結果とその治療状況を知り、被ばく者医療の過去・現在・未来を考察する。																																
授業方法(学習指導法)	4人の講師がそれぞれの専門分野からみた原爆被ばくの人体影響について解説する。学生はそれを受けて、各自の考えを述べ合い、まとめる。																																
授業到達目標	① 原爆被ばくの人体影響を理解できる。 ② 原爆被爆者の健康調査について理解できる。 ③ 原爆被災時の救護活動について理解できる。																																
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>(4/5) 三根真理子：原爆と医療の概要</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>(4/12) 三根真理子：原爆直後の救護活動（1）</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>(4/19) 三根真理子：原爆直後の救護活動（2）</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>(4/26) 三根真理子：原爆直後の人体影響調査（1）</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>(5/10) 三根真理子：原爆直後の人体影響調査（2）</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>(5/17) 三根真理子：原爆直後の人体影響調査（3）</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>(5/24) 中島正洋：放射線被ばく急性障害</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>(5/31) 中島正洋：放射線とがん</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>(6/7) 宮崎泰司：原爆と血液疾患</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>(6/14) 赤星正純：原爆被爆者の疫学調査（1）</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>(6/21) 赤星正純：原爆被爆者の疫学調査（2）</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>(6/28) 赤星正純：原爆被爆者の追跡（臨床的経過）</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>(7/5) 宮崎泰司：被ばく者への医療</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>(7/12) 三根真理子：原爆被爆者の疫学調査（大学実施）</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	(4/5) 三根真理子：原爆と医療の概要	2	(4/12) 三根真理子：原爆直後の救護活動（1）	3	(4/19) 三根真理子：原爆直後の救護活動（2）	4	(4/26) 三根真理子：原爆直後の人体影響調査（1）	5	(5/10) 三根真理子：原爆直後の人体影響調査（2）	6	(5/17) 三根真理子：原爆直後の人体影響調査（3）	7	(5/24) 中島正洋：放射線被ばく急性障害	8	(5/31) 中島正洋：放射線とがん	9	(6/7) 宮崎泰司：原爆と血液疾患	10	(6/14) 赤星正純：原爆被爆者の疫学調査（1）	11	(6/21) 赤星正純：原爆被爆者の疫学調査（2）	12	(6/28) 赤星正純：原爆被爆者の追跡（臨床的経過）	13	(7/5) 宮崎泰司：被ばく者への医療	14	(7/12) 三根真理子：原爆被爆者の疫学調査（大学実施）
回	内容																																
1	(4/5) 三根真理子：原爆と医療の概要																																
2	(4/12) 三根真理子：原爆直後の救護活動（1）																																
3	(4/19) 三根真理子：原爆直後の救護活動（2）																																
4	(4/26) 三根真理子：原爆直後の人体影響調査（1）																																
5	(5/10) 三根真理子：原爆直後の人体影響調査（2）																																
6	(5/17) 三根真理子：原爆直後の人体影響調査（3）																																
7	(5/24) 中島正洋：放射線被ばく急性障害																																
8	(5/31) 中島正洋：放射線とがん																																
9	(6/7) 宮崎泰司：原爆と血液疾患																																
10	(6/14) 赤星正純：原爆被爆者の疫学調査（1）																																
11	(6/21) 赤星正純：原爆被爆者の疫学調査（2）																																
12	(6/28) 赤星正純：原爆被爆者の追跡（臨床的経過）																																
13	(7/5) 宮崎泰司：被ばく者への医療																																
14	(7/12) 三根真理子：原爆被爆者の疫学調査（大学実施）																																

	15	(7/19) 三根真理子：まとめ
	16	
キーワード	原爆被ばく者、疫学調査、放射線の人体影響	
教科書・教材・参考書	授業計画に沿ってパワーポイント、ビデオを使用し、プリント、資料を配布する。参考書は講義の際に紹介する。	
成績評価の方法・基準等	全15回の課題レポートの平均点および意見交換の発表状況を考慮して評価する。なお、講義の順番は変更になる場合もある。	
受講要件（履修条件）		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）		



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育全学モジュールII科目-10 核兵器のない世界を目指して**」シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 4																												
開講期間																															
必修選択	選択	単位数	2.0																												
時間割コード	20130587042101	科目番号	05870421																												
授業科目名	●核兵器のない世界を目指してII(核兵器廃絶と教育)																														
編集担当教員	全 炳徳																														
授業担当教員名(科目責任者)	全 炳徳																														
授業担当教員名(オムニバス科目等)	全 炳徳, 高瀬 毅, 桐谷 多恵子, 山口 剛史																														
科目分類	全学モジュールII科目																														
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目																												
教室	[教養A棟]A-12																														
対象学生(クラス等)																															
担当教員Eメールアドレス	bdjun@nagasaki-u.ac.jp																														
担当教員研究室	教育学部本館、309号室																														
担当教員TEL	095-819-2324																														
担当教員オフィスアワー	月10:30-14:20																														
授業のねらい	核兵器廃絶に向けての取り組みや歴史的な背景等について、次世代の人たちにどう伝えるべきであるかについて考察する。特に、初等・中等教育における核兵器および被ばく体験等の戦争被害の扱われ方の実際とその問題点、あるべき姿について「平和教育の観点」から考える。																														
授業方法(学習指導法)	広島、長崎、沖縄についての平和教育関連の専門家による地域的特性を講義。更には、これらについての言論・報道の専門家の講義。これを受けて、受講生たち自らが作成した平和教育教材を実践する場を提供する。																														
授業到達目標	平和教育の題材として広島、長崎、沖縄を取り上げ、それぞれの専門家から地域的な特性について学ぶ。学んだものを自分たちのものとして作り上げるためにディスカッションを経て、平和教育教材を作成する。作成した教材は学校現場で実践を持って平和教育を体験する。																														
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>核兵器廃絶と教育(広島・長崎の視点から、講義)：桐谷、全</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>核兵器廃絶と教育(広島・長崎の視点から、討論会)：桐谷、全</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>核兵器廃絶と教育(沖縄の視点から、講義)：山口、全</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>核兵器廃絶と教育(沖縄の視点から、討論会)：山口、全</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>核兵器廃絶と教育(言論・報道関係者の視点から、講義)：高瀬、全</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>核兵器廃絶と教育(言論・報道関係者の視点から、討論会)：高瀬、全</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>核兵器廃絶と教育(グループスタディ)：全</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>核兵器廃絶と教育(グループスタディ)：全</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>核兵器廃絶と教育(教材開発と発表：広島・長崎編)：全</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>核兵器廃絶と教育(教材開発と発表：沖縄編)：全</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>核兵器廃絶と教育(教材開発と発表：言論・報道編)：全</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>核兵器廃絶と教育(平和教育実践1、長崎市内小中学校)：全</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	オリエンテーション	2	核兵器廃絶と教育(広島・長崎の視点から、講義)：桐谷、全	3	核兵器廃絶と教育(広島・長崎の視点から、討論会)：桐谷、全	4	核兵器廃絶と教育(沖縄の視点から、講義)：山口、全	5	核兵器廃絶と教育(沖縄の視点から、討論会)：山口、全	6	核兵器廃絶と教育(言論・報道関係者の視点から、講義)：高瀬、全	7	核兵器廃絶と教育(言論・報道関係者の視点から、討論会)：高瀬、全	8	核兵器廃絶と教育(グループスタディ)：全	9	核兵器廃絶と教育(グループスタディ)：全	10	核兵器廃絶と教育(教材開発と発表：広島・長崎編)：全	11	核兵器廃絶と教育(教材開発と発表：沖縄編)：全	12	核兵器廃絶と教育(教材開発と発表：言論・報道編)：全	13	核兵器廃絶と教育(平和教育実践1、長崎市内小中学校)：全
回	内容																														
1	オリエンテーション																														
2	核兵器廃絶と教育(広島・長崎の視点から、講義)：桐谷、全																														
3	核兵器廃絶と教育(広島・長崎の視点から、討論会)：桐谷、全																														
4	核兵器廃絶と教育(沖縄の視点から、講義)：山口、全																														
5	核兵器廃絶と教育(沖縄の視点から、討論会)：山口、全																														
6	核兵器廃絶と教育(言論・報道関係者の視点から、講義)：高瀬、全																														
7	核兵器廃絶と教育(言論・報道関係者の視点から、討論会)：高瀬、全																														
8	核兵器廃絶と教育(グループスタディ)：全																														
9	核兵器廃絶と教育(グループスタディ)：全																														
10	核兵器廃絶と教育(教材開発と発表：広島・長崎編)：全																														
11	核兵器廃絶と教育(教材開発と発表：沖縄編)：全																														
12	核兵器廃絶と教育(教材開発と発表：言論・報道編)：全																														
13	核兵器廃絶と教育(平和教育実践1、長崎市内小中学校)：全																														

	14	核兵器廃絶と教育（平和教育実践2、長崎市内小中学校）：全
	15	核兵器廃絶と教育（平和教育実践3、長崎市内小中学校）：全
	16	最終レポート提出
キーワード	核兵器廃絶、平和教育	
教科書・教材・参考書	講義時に提示	
成績評価の方法・基準等	<p>本講義は</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回レポートの評価点 2. 平和教育教材開発と発表の内容評価点 3. 平和教育実践授業の評価点 4. 最終レポートの評価点 <p>を合計して評価する。</p>	
受講要件（履修条件）	<p>平和教育の興味・関心のある学生</p> <p>初等・中等教育に関心のある学生</p>	
本科目の位置づけ	<p>基本的に、核兵器廃絶と教育をテーマとして、広島、長崎、沖縄を取り上げ専門的に学び、自分たちはもちろん、次世代の子どもたちにはどう伝えていくかを考える。</p>	
学習・教育目標	<p>学生たちは平和教育を考える上で、広島、長崎、沖縄の現実及び、言論・報道機関の視点からの自己点検を行う。更に、学校現場で、子どもたちに伝えたいテーマや教材になりうるネタを探し、実際に、学校での授業実践を行うことを目標とする。</p>	
備考（URL）		
備考（準備学習等）		



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育全学モジュールII科目-10 核兵器のない世界を目指して**」シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130587042501	科目番号	05870425
授業科目名	●核兵器のない世界を目指してII(文学・芸術と核兵器)		
編集担当教員	広瀬 訓		
授業担当教員名(科目責任者)	広瀬 訓		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	広瀬 訓, 山上 徹二郎, 赤木 幹子		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-12		
対象学生(クラス等)	2年次, 経済、教育、薬学、水産		
担当教員Eメールアドレス	shirose@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	核兵器廃絶研究センター2階		
担当教員TEL	095-819-2204		
担当教員オフィスアワー	水曜日3・4限およびアポイントメントによる		
授業のねらい	文学、絵画、映画、コミック、音楽等に核兵器の存在および使用が与えた影響を探り、核兵器が様々な芸術の中でどのように描写されてきたかを考察することで、核兵器が人々の間でどのように認識、位置づけされてきたかを検討すると同時に、芸術が核兵器の存在に与える影響についても考える。		
授業方法(学習指導法)	平和、紛争、核兵器を取り扱う各種メディアに関し、基礎的な知識を学んだ後、グループディスカッション、グループワーク、リアクションペーパー、プレゼンテーション等、多様な方法により、学生の意見を共有する形式で授業を進めたいと思います。また、講師として、現役のプロデューサー、作家、評論家等を迎えますので、多彩な授業内容になるかと思えます。		
授業到達目標	様々な文学・芸術と核兵器の存在との間の関係について、①現状を理解し、②その背景にある核兵器の存在に対する認識・見解を検討し、③それに対する自分の意見を、論理的に構築し、表現することを目的とする。		
	様々なメディアに表現されている核兵器の存在をそれぞれの分野の専門家による講義を通して検討してゆく。非常勤講師の都合により、講義の順序が入れ替わる場合がある。		
	回	内容	
	1	はじめに：授業の進め方（広瀬 訓） ①文学・芸術と核兵器 ・理論によるアプローチと感生によるアプローチ ・核兵器の何を描写するのか「ひろしまのピカ」、「超兵器R1号」	
	2	②芸術の持つ力（広瀬 訓） ・「風が吹くとき」の訴えるもの	
	3	③反戦という考え方（赤木かんこ） ・文学と絵本が描く戦争と平和	
	4	④原爆と映画：その1（山上徹二郎）	
	5	⑤ゲームと戦争・平和（ヒコ田中）	
	6	⑥コミックに描かれた戦争と平和（広瀬 訓） ・何を伝えたかったのか ・メッセージとテクニク	

授業内容	7	⑦核をテーマとした児童文学（赤木かんこ） ・外国作品 ・日本の作品
	8	⑧原爆と映画：その2（山上徹二郎）
	9	⑨コミックに描かれた核兵器（広瀬 訓） ・感情的表現と理論的表現 ・テーマの設定（「はだしのゲン」、「沈黙の艦隊」） ・核兵器の理解（「龍」、「エリア88」）
	10	⑩原爆と映画：その3（山上徹二郎）
	11	⑪核をテーマとした児童文学（赤木かんこ） ・長崎を舞台とした作品
	12	⑫経験と創作（広瀬 訓） ・「13デイズ」と「未知への飛行」
	13	⑬メディアの功罪（広瀬 訓） ・軍歌と反戦歌 ・「戦意高揚」という芸術 ・「わかりやすさ」と「感情に訴える」方法
	14	⑭原子力発電と児童文学（赤木かんこ） ・現在の問題にどう向き合うか
	15	⑮まとめ（広瀬 訓）
	16	
キーワード	核兵器、芸術、認識、メディア、報道倫理	
教科書・教材・参考書	教科書は特に指定しません。参考書は下記ですが、授業の際に取り上げる、あるいは推薦する図書、絵本、映画、コミック等のリストを随時配布する予定ですので、できるだけ自分で読んでください。 長谷川 潮 『戦争児童文学は真実を伝えてきたか』 梨の木舎 鳥越 信・長谷川 潮 『はじめて学ぶ日本の戦争児童文学史』 ミネルヴァ書房 長谷川 潮 『世界の子どもの本から「核と戦争」が見える』 梨の木舎 石子 順 『漫画に見る戦争と平和90年』 ほるぷ出版	
成績評価の方法・基準等	出席点を含め、レポート、リアクションペーパーの提出、ディスカッション、グループワークへの積極的な参加、意見の発表等、平常点が50%、期末の成果物（通常のレポート以外に、絵本、紙芝居、小説、詩歌、シナリオ、短編フィルム等、多様な形式での提出を認めようと考えています）が50%です。	
受講要件（履修条件）		
本科目の位置づけ	「核兵器のない世界」を実現するための方法の一環としての人文・芸術面からのアプローチを取り上げる科目であり、核兵器廃絶を推進してゆくうえで、理性だけでなく、感性に働きかける方法を考える分野です。	
学習・教育目標	自分の伝えるべきメッセージを論理的に構築するだけでなく、どのようにそれを効果的な方法で表現するかを学ぶことを通し、現実的な問題に対し、自主的、積極的に働きかけようとする姿勢を養うことを目標とする。	
備考（URL）		
備考（準備学習等）		



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育全学モジュールII科目-10 核兵器のない世界を目指して**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木4								
開講期間											
必修選択	選択	単位数	2.0								
時間割コード	20130587042901	科目番号	05870429								
授業科目名	●核兵器のない世界を目指してII(核軍縮の法と政治)										
編集担当教員	広瀬 訓										
授業担当教員名(科目責任者)	広瀬 訓										
授業担当教員名(オムニバス科目等)	広瀬 訓, 西田 充										
科目分類	全学モジュールII科目										
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目								
教室	[教養G棟]G-3B										
対象学生(クラス等)	2年次生、教経薬水										
担当教員Eメールアドレス	shirose@nagasaki-u.ac.jp										
担当教員研究室	核兵器廃絶研究センター 2階										
担当教員TEL	内線 2204										
担当教員オフィスアワー	水曜日 3・4限 もしくはアポイントメント										
授業のねらい	昨年度モジュールIで学んだ核兵器と国際社会に関する基礎的な知識と理解のうえに、核兵器をめぐる国際政治と国際法のより具体的なトピックを検討することで、核兵器と平和の問題を深く掘り下げて検討することを目的とします。そして、受講する学生一人一人が、現在の国際社会に生きる一人の人間として、「核」という人類の抱える最大の問題の一つと向き合う姿勢を養うことができると考えています。										
授業方法(学習指導法)	担当教員による講義と、学生からの意見の発表およびグループディスカッションを組み合わせる授業にする予定です。できるだけ毎回アクションペーパー等を通して、受講する学生が自分の意見を組み立て、表現する機会を増やしたいと思います。										
授業到達目標	<p>具体的な到達目標としては、①核軍縮をめぐる国際政治、国際法に関する基礎的な事実や概念を理解する、②核兵器をめぐる現実を理解することにより、核兵器と国際社会の持つ特徴を把握する、そして、③核兵器を廃絶するために適切と思われる手段を自分なりに構築する、の三点について、その成果を少なくとも同じ講義を受講している他の学生に対し、説得的に提示できるようになることを期待しています。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>はじめに：授業の進め方 ①「核兵器」に関する伝統的な考え方 ・パワーバランスとは何か ・「抑止」とは何か</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>②「核兵器」と「安全保障」 ・「安全保障」とは何か ・伝統的な安全保障観</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>③「軍縮」・「軍備管理」・「不拡散」 ・「軍縮」とは何か ・「軍備管理」とは何か ・「不拡散」とは何か</td> </tr> </tbody> </table> <p>核兵器をめぐる国際政治と国際法について、総論的にその背景と基本的な概念、議論の枠組みを提示した後、具体的にいくつかの代表的な条約や国際交渉について検討します。また、西田充客員准教授(外務省)を招いて、核軍縮の現状についての講義も計画しています。</p>			回	内容	1	はじめに：授業の進め方 ①「核兵器」に関する伝統的な考え方 ・パワーバランスとは何か ・「抑止」とは何か	2	②「核兵器」と「安全保障」 ・「安全保障」とは何か ・伝統的な安全保障観	3	③「軍縮」・「軍備管理」・「不拡散」 ・「軍縮」とは何か ・「軍備管理」とは何か ・「不拡散」とは何か
回	内容										
1	はじめに：授業の進め方 ①「核兵器」に関する伝統的な考え方 ・パワーバランスとは何か ・「抑止」とは何か										
2	②「核兵器」と「安全保障」 ・「安全保障」とは何か ・伝統的な安全保障観										
3	③「軍縮」・「軍備管理」・「不拡散」 ・「軍縮」とは何か ・「軍備管理」とは何か ・「不拡散」とは何か										

授業内容	4	④核兵器の削減 ・国際社会の取組 ・二国間の取組 ・地域的取組	
	5	⑤核不拡散条約（その1） ・成立の背景と経過 ・内容と特徴	
	6	⑥核不拡散条約（その2） ・延長会議 ・再検討プロセス ・現状と問題	
	7	⑦核実験の禁止 ・部分的核実験禁止条約 ・包括的核実験禁止条約	
	8	⑧非核兵器地帯 ・非核兵器地帯とは ・世界の非核兵器地帯 ・北東アジア非核兵器地帯提案	
	9	⑨新しい核軍縮の試み ・兵器用核分裂性物質生産停止条約 ・核兵器不使用条約 ・核兵器禁止条約	
	10	⑩核兵器と国際人道法 ・国際人道法とは ・核兵器は国際法違反か	
	11	⑪核軍縮交渉の舞台 ・ジュネーブ軍縮会議 ・国連総会および第一委員会 ・国連軍縮特別総会	
	12	⑫核軍縮交渉の現状と問題点（西田客員准教授） ※予定	
	13	⑬核軍縮交渉の展望（西田客員准教授） ※予定	
	14	⑭核軍縮と世論 ・核軍縮交渉と市民 ・私たちにできること	
	15	⑮まとめ	
	16		
	キーワード	軍縮、不拡散、軍備管理、外交交渉、国際法	
	教科書・教材・参考書	テキストは指定しません。主な参考書は下記です： 黒澤満編著『軍縮問題入門 第4版』東信堂 黒澤満『核軍縮入門』信山社 黒澤満『核軍縮と世界平和』信山社 藤田久一『核に立ち向かう国際法』法律文化社	
	成績評価の方法・基準等	出席点及び講義の際の提出物、リアクションペーパー、意見発表などの平常点が40%、期末のレポートが60%です。	
受講要件（履修条件）			
本科目の位置づけ	「核兵器のない世界」を実現するうえで、現実とそのプロセスの中心的な舞台となっている国際政治と国際法の現実を取り上げる。		
学習・教育目標	「核軍縮」という現代の具体的に問題に関する基礎的な知識を理解し、それに対し、自主的、批判的に意見を構築し、提示する能力を養う。		
備考（URL）	http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/		
備考（準備学習等）			

Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.